

民間懇話会 全体会 概要（主な意見）

●開催日時 平成29年12月19日（火）14時00分～15時30分

●主なご意見

【子育て】

- ・家庭では働いている方が多く、地域や企業が学校や保護者と力を合わせて、子どもを見守っていく必要がある。
- ・地域全体で子育てや教育を支えていける仕組みが必要。
- ・人とどう関わっていくかという非認知能力は、人生を豊かにし、忍耐力、自信、社会性など、人が生きていくために必要。

【教育】

- ・学校では、どうやって社会に関わっていくのかという新しい学びに向けた動きが必要。
- ・学校は地域と密着しており、有効活用し、保育園実習のように地域の子育て支援団体と学校の連携により、自分たちがまちづくりの主体者となっていくような、主体性を子どもたちの身に付けさせることが必要。
- ・3つの分科会について、分断されることなく、相互に係っていくような視点を持つことが必要。
- ・今後の教育は、知識を詰め込むだけではなく、自分の能力を存分に活かしきれる力を養うことが必要。また、感情をコントロールすること、体力をつけること、目標に向かってやり遂げる能力が必要。

【働く場・活力】

- ・人口減少社会を見据えながら、一定の制限下において現実的な未来を描くことが求められるが、2024年に東海環状自動車道が開通し、岐阜インターチェンジもできるといった産業界の未来が明るいという見方も必要。
- ・柳ヶ瀬では、再開発や様々な取組により活気が戻ってきているという見方もできる。また、川原町では、古民家を再生して、伝統工芸、和傘を維持していく取組もあり、若い人たちが、様々な取り組みを始めていることから、産業界や行政は、寛容な考え方が必要。

【多文化共生】

- ・外国人の増加に伴い、地域のルールが共有できない、意思疎通が難しいといった課題が出てきているが、日本が人口減少、高齢化していくなかで、これから外国人の力に頼ることが多くなることから、外国人を地域の中でどう受け入れ、一緒にやっていくか考えていくことが必要。

【地域の助け合い】

- ・自治会加入率が低下し、自治会が危機にある現状において、地域福祉的な新しい課題の解決に取り組むにあたって、地域コミュニティの再生が必要。また、地域を構成するいろいろな団体の加入率も低下しており、地域の生活圏を支えていくためには、基礎的な繋がり、人と人の関係を強くすることが必要。

【交通】

- ・高齢化が進む中で、公共交通（路線バス、コミュニティバス）の役割が重要。

【全般】

- ・市民が主体性を持って取り組む必要があるため、このような議論を市民の方と意識共有することが必要であり、どう発信していくかということが重要。
- ・ひと、まち、活力のバランスを上手く取りながら、そのなかで岐阜市がどの方向に向かっていくのかを考えていくことが必要。
- ・委員の皆様の様々な観点の意見を絡めあいながら一つの方向性を作っていくことが大切。
- ・国内も岐阜市も人口は減少傾向となっている。これからは、あらゆる政策を考えていく必要があり、例えば、新庁舎建設計画など、人口問題を基本に、将来需要を考えていくことが大切。
- ・6つの基本的方向については、政策として網羅性があり、良いと思うが、人口減少、高齢化、低成長前提の社会を迎えており、共通して認識しておかなければいけない項目として、効率的な都市構造を維持していくためのコンパクト化である。岐阜市は、これらの地域や圏域の特色を踏まえた上で、地域の各拠点に機能を集約、あるいはネットワーク化を図る姿勢でコンパクト化を進めていくことが重要。